

本校における部活動の在り方について

令和4年9月21日(水)より約1週間の期間に実施した部活動アンケートの結果をもとに、11月14日(月)に、本校部活動の在り方等について、学識経験者、地域代表者、県教育委員会事務局の各委員からご意見をいただきました。

<アンケート調査の実施について>

- ①オンラインと紙面を併用したアンケートの実施は、無記名で本音を出しやすい一方で、単なる意見の表明、すなわち一方通行に終わってしまう可能性がある。アンケート結果を受けて、学校側がどのように対応したかについて生徒たちにもフィードバックが必要ではないか。生徒がアンケートに回答したことで、部活動が変わった、よくなったと実感できることが大事である。
- ②部活動点検日が予め設定されているなど、定期的に点検の機会が確保されていることで、教員側の意識も高まると考えられるため、継続的に行う必要がある。

<アンケートの回答内容について>

- ①昨年度にも「顧問による威圧的な発言がある」といった看過できない回答内容があり、その後対応を行った経緯があった。しかし今回も同様の回答があったということは、大いに問題である。各顧問にも個別ヒアリングを実施することを要請する。また、これらは運動部に課題が多い印象があるので、引き続き注意が必要であると考えます。
- ②練習時間が長いと感じている生徒が比較的多い結果であったが、実際のところ練習をもっとしたい生徒がいることも事実である。そのような多様な生徒からのニーズを反映し部活動を行うために、生徒間でどのように活動したいのかを話し合い、自主的に運営する意識をもつのが理想である。生徒には、顧問の先生方と密に連携しながら、調整し、進めていってほしい。

<部活動顧問の指導方法等に対する意見、提言と、体罰等を防ぐための手だて>

- ①体罰やハラスメントは到底許されるものではない。自らの学生時代の部活動指導イメージを未だ引きずる教員がいるのであれば、意識改革を要請したい。
- ②生徒のための指導を一番に考え、そのために一人一人の背景や個性に配慮し実施してほしい。
- ③学校は教える側と教えられる側が予め設定された特殊な環境にある。自分の意のままに生徒を動かそうとするから体罰やハラスメントの問題がおきる。指導する側は、指導する権限が与えられていることを自覚し、適切に指導に当たるべきである。
- ④適度な緊張状態は必要だが、暴言や暴力によって恐怖に駆られている精神状態ではベストなプレーは出ない。威圧的な指導が最善の策ではないということは自明であることを意識し、指導にあたってほしい。

<新型コロナウイルス感染症や熱中症の予防について>

- ①熱中症を防止するためには生徒自身が万全の体調で部活動に参加すること(十分な睡眠、バランスの取れた食事)がまずは重要であることを念頭に指導してほしい。未然の予防が大切であることを自覚すべきである。
- ②安全安心を第一に考え施設設備の問題を改善していくことを希望する。
- ③「新型コロナウイルス感染症にかかる学校教育活動に関するガイドライン」では、県外への遠征は条件付きで可としている。ガイドラインを基に、行き先の状況を見極めて実施してもらいたい。
- ④生徒の健康、安全を考えると、状況にもよるが熱中症予防がコロナ対策に優先すると考えられる。そうした見地から活動中はマスクを外してよいと判断できる。一方で、話し合いやミーティングの際にはマスクを付けるなど、けじめをつけて実施してほしい。